

看護二次資料の変遷と文献の動向（2）

今田敬子

上武大学看護学部

背景：看護二次資料の変遷と文献の動向(1)で、主要な国内看護二次資料は看護研究者や大学教員が中心に推進してきたことなどを概観し、出版者企画によるものは質とコストのバランスがとれず継続出版できなかつた。(第21回医学情報サービス研究大会発表 2004.7) 看護領域文献が検索できる二次資料の医学中央雑誌、最新看護索引、J-Dreamなどを5つの検索語の検索結果で比較検討し、最新看護索引と医学中央雑誌は看護領域への限定が可能で、著者所属機関も検索主題領域と適合し、統制語検索も可能で看護文献選択の有用性が高いと推測された。また刊行タイムラグは検索結果タイムラグ(文献鮮度)には比例していなかつた。(第52回日本図書館情報学会研究大会発表 2004.11)。

大学病院看護師調査によれば、研究の情報収集方法は、図書や論文中の参考文献が61%で、データベース検索は16%であり、データベース使用経験は医学中央雑誌が最多で44.7%、最新看護索引は16.7%であった。(第6回看護情報研究会 2005.6 発表)

調査と結果

看護管理研究者の文献収集行動を、引用・参考文献より遡及して判別する目的で、日本看護学会看護管理領域の論文集(第34回 2003年)掲載155題に付与された参考文献および引用文献(以下参考文献と表記)の構成を分析した。1題は参考文献がなく、154題に平均約6件、計913件の参考文献が記載され、雑誌文献が67%(612件)で、雑誌文献外33%(301件)の内訳は図書276、報告書20、ホームページ3、修士論文2である。図書の発行年は1968~2003と幅広いが、81%(285)が過去10年間に涉っていた。引用頻度の高い雑誌は、日本看護学会論文集(看護管理)+日本看護学会集録(看護管理)の計89で自誌引用が最も多く、看護展望、看護、看護管理、看護研究、看護教育、日本看護研究学会雑誌など10誌で51.8%(317)を、Infection Control、ナースマネジャーなど20誌で68.3%(418)、大阪府立看護短期大学紀要など25誌で73.5%(450)と、参照雑誌は少数の雑誌に集中していた。発行年は1970~2003だが、過去5年間で63.7%(390)、過去10年間で88.4%(532)であった。情報収集方法を判別するためデータベース収載状況を確認した。日本看護協会の学会発表でもあり、冊子で研究時点の収載が判別可能な「最新看護索引」で検証した。研究時期に参照可能であったのは「最新看護索引 2000」までで、50.8%(311)は対象外であり、情報収集に「最新看護索引」検索は有効ではなかつたといわざるを得ない。2001~2003は医学中央雑誌検索か、一次資料からの情報収集による可能性がある。データベースの索引語やキーワードと一致していないことが多く、著者付与キーワードでは検索できないことが多かつた。データベース検索語と著者キーワードの関連性や、医学中央雑誌への収載状況や情報収集の実際は今後検証していきたい。